

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○柔軟で多様な学びのシステムを活かした教育活動を推進する。 ○学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる。	①教育課程を適切に運用し、学びのシステムの有効活用を目指す。 ②課程間で連携しながら、学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる授業を研究する。	①課程間併修等の多様な学びのシステムの有効的な活用について検討する。 ②課程や教科を超えて情報共有を行い、学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる授業研究の推進、授業環境の整備を行う。	①教育課程の適切な運用ができたか。課程間併修等の有効的な活用ができたか。 ②課程や教科を超えて情報共有を行い、持続可能な授業改善に組織的に取組むことができたか。	①課程間併修に関する内規を個別学習支援制度を中心に有効活用されるように整理、改定した。 ②研究会では各課程の生徒に則した学習の手立ての共有を行い、また、生徒が学習しやすい環境を整備し、学習をより身近なものにした。	①制度の改善を不断に見直していくとともに、利用が活発となるように生徒広報を充実させていく必要がある。 ②ICTを用いた学習環境の充実や、生徒の学習意欲を促す授業方法などは、依然として改善の余地がある。	①多様な学びのシステムを有効に運用してほしい。 ②公開授業研究会はいい企画ではあるが、各課程で実情が違うので、まず、各課程で行った後で全体でもまとめるということもいいのではないか。また、テーマや実例を上げて実施するといいいのではないかと思う。	①②学習環境の整備を中心に、ICTを活用した学習方法に方向性をつけることができたので、これらをより充実させ、定着させていく必要がある。	①教員間の技術的な格差を埋めるべく研修を実施していく必要がある。 ②コンテンツを提供しやすい環境づくりと、生徒へのより積極的な周知を徹底していく。
2	生徒指導・支援	○誰もが自分らしく過ごせる安全・安心な学習環境を実現する。  ○生徒の主体的な活動を充実させ、協働する力と自己肯定感を養う。	①生徒一人一人の課題に目を向けた教育相談体制と支援体制を充実させる。  ②新型コロナウイルスの感染が緩やかになったところで、特別活動の活性化を図り、生徒の主体的な活動をより充実させ、協働する力と自己肯定感を養う。	①教育相談では SC、SSW、カフェブランシュとの情報共有を密にし、校外機関との情報共有と連携を図りながら生徒を支援する体制を構築する。 ②生徒が主体的に学校行事を計画し実施できるよう、生徒の力量と関係性に配慮し、職員の協力体制を構築して支援する。 ③三課程で定期的に情報を共有することで共通する課題を洗い出し、解決法を探る。	①校内外の関係機関と連携して生徒を支援することができたか。相談・支援体制の円滑な運用ができたか。  ②生徒が主体的に学校行事に参画し、協働する体験を通して自己肯定感を得ることができたか。 ③三課程での情報交換が有効に機能し、共通する大枠の課題の把握と具体的な解決策の検討につながったか。	①神奈川子どもサポートドックや情報共有会、ケース会議で得た情報をもとに、SC、SSW、カフェブランシュ、総合教育センターなどと連携して相談・支援計画を立て、生徒支援を行った。  ②生徒が主体的に学校行事を企画・運営し、高い満足度を得た。職員は生徒の意見を積極的に聞き取り、企画から実行までの支援を行った。  ③三課程で定期的な情報共有会を開き、共通課題の把握と解決策の検討を行った。これにより各課程の状況を理解し、より効果的な対策を検討できた。	①校外機関との連携を強化するために、情報共有の枠組みや内容を明確にし、定期的な情報交換会を開催する必要がある。役割分担をはっきりさせることで、より効果的な連携が可能になる。 ②生徒の協働意識を高めるために、グループワークやチームビルディングを導入し、協働能力を向上させることが重要である。生徒間のコミュニケーション能力と協調性を向上させることで、効果的なチームワークが実現できる。 ③具体的な解決策を検討するためには、各課程の担当者間の連携を強化する必要がある。連携を通じて共通課題に対する理解を深め、より効果的な解決策を見つけることができる。	①後期などに生徒の足が学校から遠のく傾向があるので、学校に引き寄せる方策や、部活動の活性化などが必要ではないか。 ②コロナ以降生徒会の活動が活発化してるのはよいことだ。近隣の小学校や地域の自治体の行事などにも参加するとさらに生徒の協働意識の向上につながるのではないか。特に、近隣自治会にもっと学校のことを広報してやっていることを認知してもらう必要がある。 ③三課程が綿密に情報を共有して共通の課題を把握、解決するための努力が見えてよかった。	①神奈川子どもサポートドック、情報共有会、ケース会議等で情報共有を図り、得た情報をもとに相談・支援の計画を立て、SC、SSW、カフェブランシュなどのほか総合教育センター等関係機関と連携し生徒支援を行った。 ②生徒が主体的に学校行事を企画・運営し、高い満足度を得た。生徒の意見を積極的に聞き取り、企画段階から実行段階まで、生徒が主体的に活動できるよう、職員が適切なサポートを行った。 ③三課程で定期的な情報共有会を開催し、共通課題の把握と解決策の検討を進めた。情報共有を通して、各課程の現状や課題を理解し、共通認識を持つことができたため、より効果的な対策を検討することができた。	①校外機関との連携を強化するため、情報共有の枠組みや連携内容を明確化し、定期的な情報交換会などを開催する必要がある。それぞれの機関の役割分担を明確にすることで、より効果的な連携体制を構築できる。 ②生徒の協働意識をさらに高めるために、グループワークやチームビルディングなどを導入し、協働能力の向上を図る必要がある。生徒同士のコミュニケーション能力や協調性を高めることで、より効果的なチームワークを実現できる。 ③情報共有の内容をより深掘りし、具体的な解決策を検討するためには、各課程の担当者間の連携を強化する必要がある。担当者間の連携強化を通して、共通課題に対する深い理解を共有し、より効果的な解決策を検討できるようになる。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○高校生活の意義を明確化し、キャリアを適切に形成していくための支援を行う。 ○複雑化する進路選択に対応しうる相談体制を構築し、進路希望を実現する。	①三課程共同で複雑化する進路指導における課題の発見と集約、課題解決方法を策定する。 ②早期における自己の将来設計を通して、生徒一人一人が日々の学習や活動に意欲的に取組めるよう支援する。	①「テーマ研究」の内容を不断に見直し、より一層の充実を図る。  ②三課程の連携強化、SCC、SSW、サポステとの連携をより一層進め、多様な視点から進路情報を分析し、生徒に寄り添った進路指導を行う。	①具体的な方策として挙げたものを実施できたか。  ②具体的な方策として挙げたものを実施できたか。	①「テーマ研究」のレポート内容見直しはもちろん、生徒の進路に対する意識付けを狙い、進路を決めた在校生に話をしてもらう「進路座談会」を実施。生徒のニーズに寄り添うよう努めた。 ②多様な生徒一人一人に寄り添う進路支援を担任、SCC、SSWと連携し実施した。他課程とも密に連絡を取り情報共有、業務改善に努めた。全日制主催の保護者向け進路ガイダンスでは郵送・クラスルーム・マチコミを使い周知し、結果40名程度申し込みがあった。	①生徒同士のつながりが希薄になりがちな通信制では生徒自らの講演による情報共有が一つ有効な手段だと実感している。生徒のニーズを拾えるよう努めたい。 ②全日制、定時制主催の催しへの通信制生徒の参加率を上げていきたい。進学に関しては意識付けのため、模試の実施の仕方を再検討したい。就職に関しても面接練習の強化など、細かい見直しが必要だと考える。	①働く事を意識したキャリア教育が必要ではないか。また、インターンシップが重要だが、実際には就業につながっていないことが残念だ。また、進路座談会はいいい試みだ。進路が決定した生徒の話は有効だ。  ②他課程の進路行事に参加することは刺激があっている試みだ。生徒と先生はグループクラスルームで繋がっているようだが、保護者が先生とが繋がっていないので、新たな方策を考えて欲しい。	①「テーマ研究」のレポート内容を見直すだけでなく、生徒の進路意識を高めることを目的に、進路を決定した在校生による「進路座談会」を実施した。生徒のニーズに寄り添いながら、より有意義な支援を心がけた。 ②多様な生徒一人ひとりに対応できる進路支援を、担任・SCC・SSWと連携しながら実施した。また、他課程とも密に連絡を取り、情報共有や業務改善に努めた。全日制主催の保護者向け進路ガイダンスについては、通信制の保護者の出席率を高めた。	①通信制では生徒同士のつながりが希薄になりやすいため、生徒自身が講演を行う情報共有の手段を充実させていきたい。生徒、保護者のニーズに耳を傾けていく。  ②通信制の生徒が全日制や定時制主催の催しに参加しやすくなるよう、参加率の向上を目指す。模試通信制課程での意義、実施方法を見直す。就職面では面接練習の強化等、他課程の実践例も参考に改善していく。
4	地域等との協働	○社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域等と連携した教育活動を推進する。 ○学校の魅力・特色の校外への情報発信を推進する。	①地域貢献活動を推進し、地域への情報発信を行うとともに、地域との相互理解を深める。 ②広報活動を通して本校の特色やスクールポリシーを正しく伝えられるよう工夫する。	①「避難所運営マニュアル」「避難所運営委員会」の策定・設立を目指す。 ②学校説明会・個別相談会等で、学校の学習内容や目標を伝えるときともに、通信制の学びが自身に向いているかを説明会参加者に考えさせられるようにする。	①「避難所運営マニュアル」「避難所運営委員会」を策定・設立できたか。 ②学校説明会を通して入学希望の生徒が通信制の学び方やスクールポリシーを正しく理解し、そのうえで本校の入学を選択できているか。	①厚木第二小学校と相川小学校にはすでに避難所運営委員会が設立されており、その中間に位置する本校とは地域が重複するため本校に避難所運営委員会を設立することに近隣自治会が難色を示しているため難航している。 ②学校説明会をオンライン化、学校開催を個別相談会に一本化することで、学校情報をより得やすくし、個別相談会の時間を確保することで、相談内容に対してより具体的な回答を出しやすくした。	①危機管理課からは近隣自治会から本校の避難所運営委員会の設立に対して、近隣自治会が難色をしめしているため、当面設立は難しいといわれている。 ②説明会に要する負担は軽減されたものの、その他の広報活動をより参加者に満足してもらえるよう時期・内容を検討する必要がある。	①学校防災についてももっと近隣自治会などにも広報することが大切。学校が何をやっているのかが分かることが、自治会との連携につながる。 ②ICTの活用はすすんでいる半面、リテラシーに不安を覚える。しっかりと教えることが必要だ。	①避難所運営委員会および避難所運営マニュアルの作成について厚木市危機管理課、近隣自治会との話し合いを持つことができなかった。 ②昨年度から大幅な変更を行い、通信制学習に対する理解度に一定の手ごたえを得られた。今後は細部に目を配り、需要が満たせるようにしていく。	①厚木市危機管理課、近隣自治会とも話し合いが難しい状況にあるが、避難所に指定されている以上、災害は待てないので、学校からも粘り強く交渉の場を設けるように努力することが必要である。 ②定期的に更新していた説明会動画を年度初期に一本化する、個別相談会の実施時期を中学校の進路指導に合わせたものにするなどの工夫をしていく。
5	学校管理 学校運営	○生徒が安全・安心に学校生活を送れるように教育環境を整備する。  ○教員の働き方改革をさらに進め、教育活動の充実につなげる。	①危機管理マニュアルを策定するとともに厚木市・近隣自治会と連携・協働して地域防災活動を推進する。 ②学校の特色を生かしつつ効率化や職場環境改善を進める。	①防災の危機管理マニュアル等を更新して、職員に周知させる。 ②衛生委員会等を活用し働きやすい環境づくりを検討する。	①防災の危機管理マニュアル等の更新と職員への周知ができたか。 ②働きやすさが向上したか。	①学校防災活動マニュアルを令和6年度版に更新した。また、そのマニュアルの簡易版を作成し全職員に配付した。 ②衛生委員会でアンケート等を実施し、職場環境改善や業務の効率化が進んだ。	①学校防災活動マニュアルは作成・周知したものの、避難所関係の委員会・マニュアルが進んでいないので市・近隣自治会との粘り強く交渉していきたい。 ②不祥事防止研修会等を活用し、風通しの良い職場環境づくりに取り組む。	①災害はいつ起こるか予想できないので、万全な体制を整えておいてほしい。 ②衛生委員会の活動、日頃の繋がりの中で互いに声を出せることはよりよい学校づくりにつながる。	①学校防災活動マニュアルは厚木市の防災倉庫を含め、毎年更新している。70ページに及ぶもので、全員に配付できないので、災害発生時に必要最低限の情報をまとめた簡易マニュアルを作成し、全職員に配付した。 ②衛生委員会の活動により、校務室に空気清浄器を設置するなど、職場環境の改善がなされた。	①学校防災活動マニュアルや危機管理マニュアルは災害のみならず、安全教育など多岐にわたるものであるため、全職員に周知徹底させることがかなり難しいが、広報活動を含め徹底していく。 ②まだまだ改善すべき課題があるので、衛生委員会を有効活用してさらなる改善をしていく。

